

与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか

工学部化学生命工学科 松本往寛 学籍番号：2511300460

今回、与論島に行き行政、観光、農業、文化、漁業にかかわる様々な方からのお話を聞くことができ、とても貴重な経験ができたと思います。私は熊本出身で、島に行くとしても天草などで、与論島のあらゆるものが新鮮でした。これから分野別に思ったことを述べたいと思います。

まず行政ですが、一番驚いたのは企業誘致がなされているということです。このことは島が活性化していく上でとても大きいことだと思います。今回、見学させていただいた日本マルコ（株）が与論島に工場を設けた理由として、「社長が海が好きだから」と職員の方がおっしゃっていました。島は輸送コストなどの関係からどうしても企業を誘致することは難しいと思います。ですが、軽量で高価なものは輸送コストの問題はないので、そういった企業に誘致をどんどん進めていければいいと思います。与論島は過疎化に指定されていないということだったので今後も頑張ってもらいたいです。行政の全体を見て思ったのは、島でもなに不自由なく暮らしていけるんだなということでした。

次に、観光の面から与論島を見てみると、さまざまなことが見えてきました。ついこの間、地元の友達が与論島に遊びに行くと言っていました。沖縄に行かずに与論島にわざわざ行くというのはそれだけの魅力があるからだと思います。確かに今回行って見て、もうちょっと長く居て、百合が浜、民俗村、島の魚が食べられる居酒屋などで楽しみたいと思いました。しかし、問題点もあると思います。それは与論島までの移動手段です。今回、フェリーで行きましたが、正直疲れました。フェリーの中で各島の特産物を使った料理であったり、各島のフロアを設けてお土産を販売するなど旅行者がうきうきしたまま島に上陸できる工夫をすればいいと思いました。また、関東からの旅行者が一日で与論島まで移動できないとおっしゃっていましたが、沖縄まで与論から船を出すなどして一日で移動できるようにした方がいいと思います。予算などの問題はありますが、どうか頑張ってもらいたいです。与論マラソンに関連して、与論一周遠泳などの企画はいかがでしょうか。与論島を囲むきれいな海に惹かれ多くの観光客方がいらっしやるのではないかと思います。与論島にはもう一度必ず行くつもりです。友達にも与論島の素晴らしいところを伝えたいと思います。

農業は台風との戦いだと思います。台風が来るのと来ないのでは、かなりの生産額の差があるので、農家の方はやりきれない思いだと思います。私は、工学部なので台風が来ても動じない農業施設を材料力学の視点から真剣に学び、考える必要があると思います。また、暖かい気候を生かしたサトイモの生産が成功していると聞きました。このようなブランドを色々な作物で作っていくことは大変いいことだと思います。講義中にも話に出た牛肉のブランド化は畜産を活性化させるための一つの方法だと思います。

また、与論島の文化は島独特のものが数多くあり、大変いい経験ができたと思います。隣の島への伝達方法として火が使われていたことには驚きました。城跡地を歩いていると、昔の人の島を守る工夫がみられ感銘を受けました。民俗村では、サトウキビを絞る機器やハリセンボンを使ったねずみ除けなど、島ならではの道具を見ることができました。

最後に漁業です。現役の漁師の方が行っていた伝統的な方法での釣りはとても興味深いものがありました。どのようなものにおいても伝統的なもの、技術は残していく必要があると私は考えます。島の若い方が動かないのであれば、観光の分野と手を組んで旅行者をターゲットにおいて、伝統釣りのツアーなどを組めば、もしかしたら興味を持った方が引き継いでいかれるということも考えられると思います。

ここまで、「与論島を活性化させるために」というテーマで様々な分野から私の意見を述べさせていただきました。少し滞在するだけではみえていないところが多々あると思います。ですが、島を活性化させるためには、まず島全体が一つの方向を向いて進むことだと思います。今回、少しの滞在でしたが与論島のことを好きになったので、是非頑張っていたきたいです。非常に貴重なお話をさせていただき、ありがとうございました。